

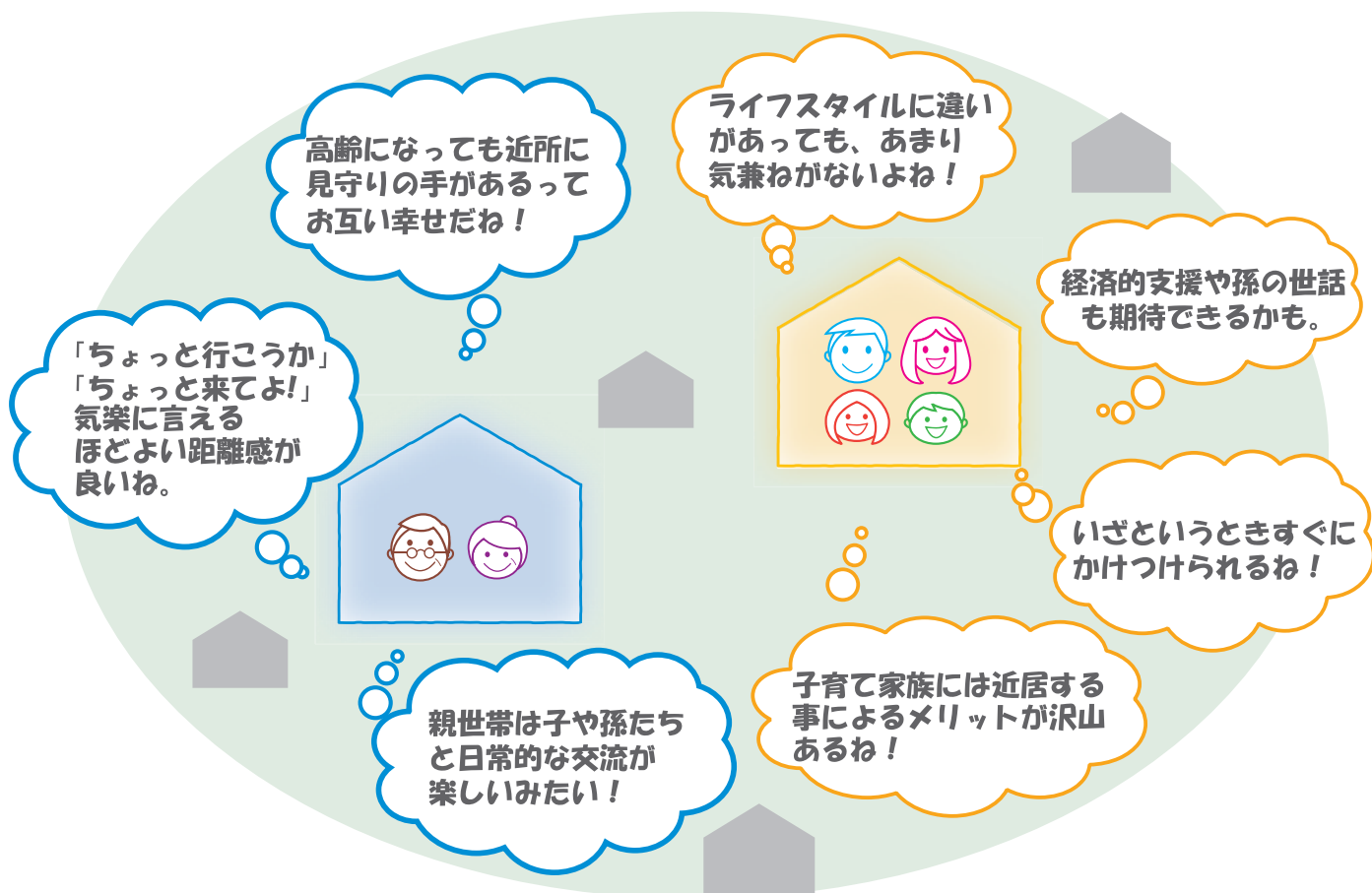
近居のススメとポイント

子世帯にとって親が近所に住んでいるということは安心感があり、頼りにもなり、都合が良いものです。夫婦ともに仕事を持っている場合、子供が出来たら保育所や幼稚園の送迎を手伝ってもらえたり、日中の孫の面倒も見てもらえるかもしれません。

たまに親世帯を訪ねれば、おいしい手料理をいただきながら、近況報告など世帯同士の交流も出来るし、経済的にも助かります。

親世帯にとっても子世帯が近くに居てくれれば安心でしょう。時々、孫を連れて遊びに来てくれれば、精神的にも満たされ毎日の生活が充実するでしょうし、お互い病気や怪我などまさかの時には助け合いが出来るはずです。

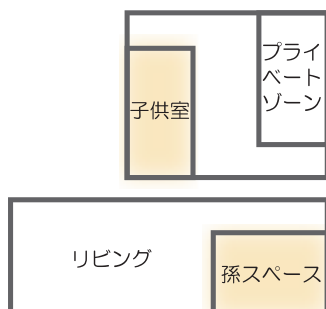
三世代それぞれの成長を見守り見守られる環境



賃貸住宅・マンションに近居するのもよし!

親又は子世帯の近くに住みたいけれど敷地が狭い。敷地がない。高齢の親を呼び寄せたい。单身になった親と近所で暮らしたい。将来は賃貸に回しても良い。そんな時は賃貸住宅やマンションを検討してみてもよいでしょう。

たとえばこんな工夫も…



子世帯が留守中でも、寝室などプライベートゾーン（見られたくない場所）に入ることなく孫の世話をお願いできる案

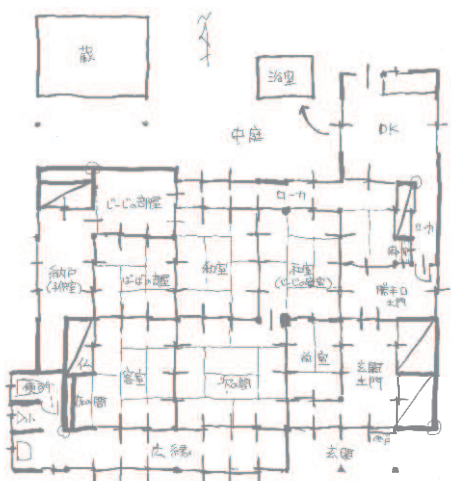
親世帯に学校帰りの孫を預かってもらうためリビングの一部を孫スペースにし、おかたすけの棚を設ける案

江戸末期の民家改修再生

近居家族の将来～今からいっしょに住む改修事例 子供達に受け継ぐ住まい

築30年の家で暮らす子世帯。ある日「ばあば、僕たちこの家に住みたいよ！」と言ってくれた孫。家族も孫もお気に入りのこの家。約140年前に建てられた親世帯の家。この家には思い出が一杯！縁側で日向ぼっこ、正月は土間で餅つき、三間続きの和室で大宴会。

あと60年家守りしたらこの建物は200年の歴史を刻む。耐震性、断熱性、バリアフリーを視野に入れ、「先人が残してくれた住まいを次世代に引き継いでいきたい」という思いから、親から子へ子から孫へ三世代同意のもと、みんなで暮らすための再生工事が始まった。



Before



DATA

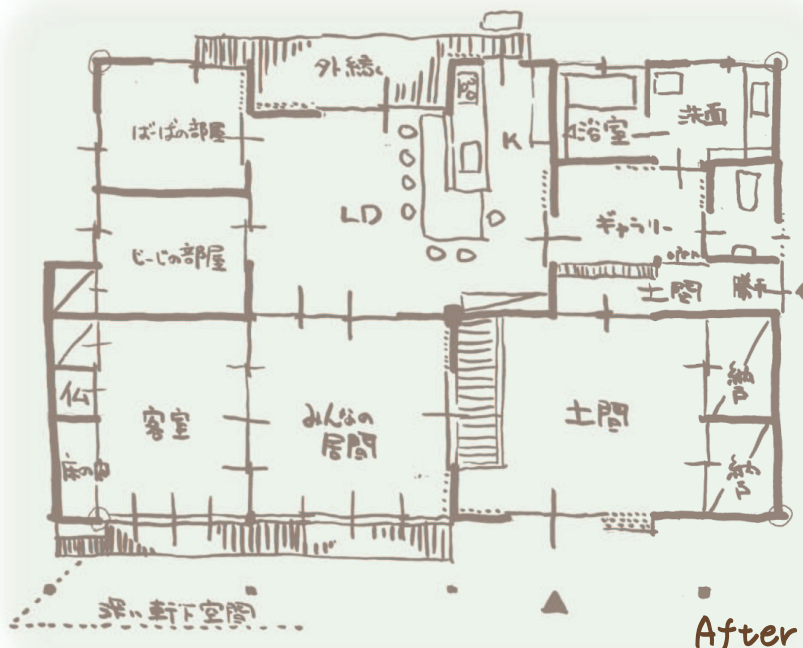
娘家族と近居中

親世帯：夫婦

子世帯：夫婦 + 子（高1，中3，小4×2人）

改修・再生内容

- ・耐震改修。元の構造体に戻す
- ・プランは子世帯と相談しながら
- ・水回りはまとめる
- ・ほどほどバリアフリー
- ・それぞれの生活スタイル尊重
- ・断熱性向上



After

先祖代々の古民家を受け継ぐ

「先祖代々の家をどうするか」というのも、家族にとっての大きな問題です。近居で交流を重ねることが、子どもたちが家に愛着を持つきっかけにもなります。

生活スタイルのちがひ
 近居事情のいろいろ
 つかずはなれず
 大好きな家
 大好きな家族
 いつかは同じ屋根の下
 いつもいっしょ
 ちがはらな
 土地はなんぼでもある
 いざというとき
 仲良く
 みんまでくらす
 それぞれの家を大切にしたいよもい
 気づかいながらくらす

おたがいの家族を
 おたがいが見守りながら
 くらすたのしみ
 〃
 気づかい
 子供達の情操教育
 〃
 慮る力(おもいよかるちから)

